

○チケット 3分 Ver.

相「はあ…。まさかあんな紙切れ1枚に人生を終わらされるとは…」

戸「急になんですか？はい？」

相「ついさっき人生が終わりました」

戸「だから何がなんだよ」

相「今までありがとうございました」(頭を下げて帰ろうとする)

戸「ちょちょ全然分かんないって。何があったのさ」

相「好きな歌手のライブチケット外れた」

戸「あ、絶対言い過ぎだね」

相「人生終わった」

戸「それくらいじゃあ終わんねえよ流石に」

相「流石に？あ、サスガニスタン？」

戸「あ、うるさいかもしれない」

相「まあ言い過ぎたんなら謝るね。ごめんなさーい(占い最下位の言い方)」

戸「めざまし占いか。そんな謝り方されても嬉しくないよ？」

相「でもやっぱ納得できない。さっきパッとスマホ開いたらメールが来てて。厳正なる抽選の結果、チケットを用意することができませんでしたって書いてあったんだよ？」

戸「うん」

相「ねえ！」

戸「分かったって。まあまあショックだとは思うけど…」

相「メールに書いてあったら嫌な言葉ランキング、厳正なる抽選の結果、チケットを用意することができませんでした部門…」

戸「何その部門…」

相「第2位！」

戸「1位じゃないんだ！？嘘だろ！？」

相「でもどうしよう…」

戸「まあでもこればかりはしょうがないからねえ…」

相「でもさ、チケットが用意できなかったってことは、つまり席を用意することができなかったってことでしょ？」

戸「うん。まあそうだね」

相「私全然椅子持ってくけどな」

戸「なんですか？はい？」

相「座席足りてないなら家から持ってくればいいじゃん」

戸「そういう問題じゃないって」

相「私はライブを観たい。でも座席が足りてない。じゃあ自分で持ってくる。…解決じゃん」

戸「何も解決してないよ？」

相「え、Win-Winでしょ？」

戸「Win-Loseなのよ。貴方の1人勝ちなんだよ」

相「え！？私勝ち！？やったー！」

戸「なんじゃこいつマジで。ちょちょライブハウス側にも迷惑だろいきなり来たら」

相「え！？じゃあ私不審者ってこと！？」

戸「...そう！」

相「心外なんだけど！」

戸「今自分で言ったよね？じゃあ自覚あるってことでしょ？」

相「自覚はない。今のは、...世論」

戸「うるせえってずっと。いや世論分かってるなら自覚あるんだろ？」

相「自覚ない」

戸「もういいって。ずっとなんなんだよこれ」

相「そんなに怒らないでよ。いつでもスマイルしようねだよ」

戸「ホフディランじゃねえか」

相「え？これは森七菜ちゃんだよ」

戸「なんでカバーの方しか知らねえんだよ。原曲も聴けよ。てかそもそもライブはこの先もたくさんあるんだから次は当たるように願っておこうよ」

相「今回が解散ライブなの！」

戸「うーわ...。それは...」

相「もう二度とないライブなの！」

戸「マジかよ...」

相「もう一生見られないと思うと悲しくて...」

戸「そんなライブのチケットが外れるなんて...。なんて残酷な...。こんなことがあっていいのか...。ありえない...。悲しすぎる...。いやこんなの許せないな！よし、席持ってこう！」

相「え？え？え？え？え？反対してたよね？」

戸「事情が変わったんだよ！私も一緒に行く！」

相「それはなんで！？」

戸「君1人を悪者にはしない！いざとなったら私を囮にして逃げろ！」

相「逃げたら私観られないじゃん」

戸「君の分まで楽しむ！」

相「はあ？」

戸「そして警備員に連れていかれて、警察に捕まって、人生終わった！あははははは！ねえ？」

相「やばすぎるって...」

○かわいいだけじゃだめですか？ 4分Ver.

相「みんなが知らないことを当たり前みたいにするのって良くないと思うんですよ」

戸「何の話だよ。まあそれはその通りだと思うけど」

相「CUTIE STREETって知ってる？」

戸「ああ、かわいいだけじゃだめですか？とか歌ってるアイドルグループよね」

相「そうそうそうそう。で、丁度その“かわいいだけじゃだめですか？”って曲が気に入らないのよね」

戸「気に入らない？何が？」

相「ちょっと最初から歌ってみてくれる？」

戸「なんで当たり前みたいに歌えると思ってるんだよ」

相「え？歌えないの？」

戸「...まあ歌えますけど。好きなんで」

相「じゃあどうぞ」

戸「んんっ(咳払い)。(オクターブ下で)大ピンチです あと10分で家を...」

相「ちょっとストップ！」

戸「なんだよ。今歌ってるだろ」

相「原曲キーに決まってるじゃん」

戸「原曲キー！？無理だって。あんな高い声出ないよ私」

相「行けるって。出来ないことなんてないんだから。戸田くんが歌ってくれないと話が進まないの！」

戸「分かった分かった。頑張ってみるから。んんっ(咳払い)。大ピンチです あと10分で家を出なくちゃ遅刻しちゃうそうです 逃げるにしげホッゲホッ！おえっ！全然無理だった。しんどこれ...」

相「ちゃんとやってよ！」

戸「頑張った方だろ！喉ぶち壊れそうだわ」

相「いや行ける。絶対行ける。次は成功するから」

戸「え、これ普通に解説してくれれば済む話じゃないの？歌わなきゃダメかな？」

相「うん。絶対歌ってほしい。戸田くんがちゃんと歌ってくれる代わりに、私の疑問話してあげる」

戸「じゃあ別に歌い切らなくて良いんだけど。そこまでして聞きたい話でもないしな」

相「いや、聞いとくべきだと思うよ」

戸「え、べきまで言っちゃう？そんな凄い話？」

相「うん」

戸「マジか。じゃあ頑張るわ。すー(胸に手を当てて息を吸う)。大ピンチです あと10分で家を出なくちゃ遅刻しちゃうそうです 逃げるにしかず 本気出したら時間なくてもめっちゃかわいくなれるも〜ん。テレテテ。

にやにやにやにやにやにやにや、にやにや...(振り付け踊る)」

相「あ、踊らなくて大丈夫(手で制止する)」

戸「ああごめんなさいごめんなさい」

相「え、どうしたの？まさか踊り始めるとは...」

戸「ああごめんごめん。なんかノってきちゃって」

相「流石に踊れるの意味分かんないって」

戸「いやダイエットの一環でダンス練習してるんだよ」

相「選曲変だって。ダイエットならもっと他あるでしょ」

戸「そうかな？」

相「まあいいや。とりあえず私が今のところもう1回歌うから、疑問に思うところがあったら止めて」

戸「もう1回歌ってくれるんだ！？じゃあ私必要だったかな？」

相「とにかく歌うから！」

戸「分かっちゃって。疑問に思うところで止めれば良いのね？」

相「大ピンチです あと10分で家を出なくちゃ遅刻しちゃうそうです 逃げるにしかず 本気出したら時間なくてもめっちゃかわいくなれるも〜ん」

戸「...」

相「(無言で戸田の方を見て)ちょいい加減にしてよ」

戸「何がだよ」

相「私ただただ歌っただけになるじゃん」

戸「うん。歌っただけだよ？」

相「もうあったじゃん。気になるところ」

戸「どこにもなかったよ？CUTIE STREETっていうグループ名によく似合う可愛い歌詞だっただろ」

相「は？それ本気で言ってる？」

戸「うん」

相「いやそうやって何も考えずに生きてるから2週間連続で自転車撤去されて無駄に行政にお金払ってるんだよ」

戸「今それ関係ねえだろ。私が自転車の引取り料払ったせいで金欠になった話。しなくていいよ」

相「だから！“逃げるにしかず 本気出したら”の“にしかず”って誰なの？」

戸「あれ人の名前じゃねえよ！」

相「そうなの？」

戸「そうだよ」

相「いや絶対人の名前だって。だってそんな言葉知らないもん」

戸「あなたが知らないだけでそういう表現があるんだよ。何々にしかずっていう。何々するのが1番よい。最善だ。みたいな意味ですよ」

相「嘘つかないで」

戸「本気出したら短時間でも可愛くなれるから今日は一旦メイクから逃げてもう出かけようって意味で“逃げるにしかず”って言ってるんじゃないの？」

相「いや納得出来ないね」

戸「別に納得出来る出来ないの話じゃないけどな...」

相「よし決めた！私はこの“にしかず”さんの正体が誰なのかを探す旅に出るよ」

戸「あ、行ってらっしゃいませ」

相「もちろん戸田くんも一緒だよ？」

戸「行かない行かない行かない。1人で行って来てよ」

相「なんでよ。私達は運命共同体じゃん」

戸「そんな大層な...」

相「あ、もしかして今この状況、“逃げるにしかず”って思ってんじゃないの？」

戸「え...？(困惑した表情)」

相「ねえ？(客席に語りかける)」

戸「やかましいわ」